

- 県では、河川からの越水等による浸水被害を防止する取組の一つとして、堆積土砂や支障木の撤去による流下能力確保対策を平成24年度から重点的に実施しています。
- 令和4年度から令和7年度までの4か年を取組期間とする「河川流下能力向上・持続化対策計画」に基づき対策を行ってきましたが、計画期間が終了することから、これまでの取組で見えてきた課題に対応した新たな計画を策定し、令和8年度以降もさらに取組を推進していきます。

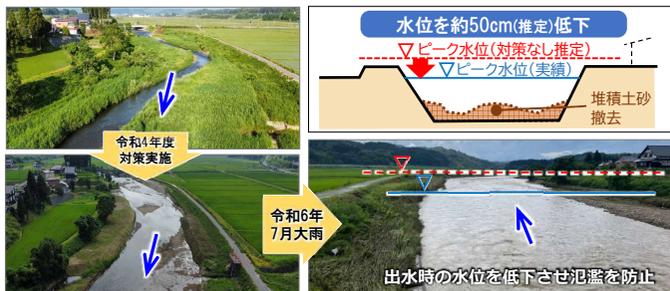
I. 近年の取組

■ これまでの取組内容

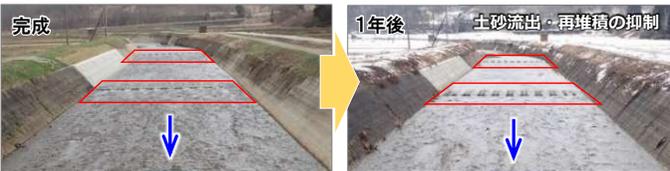
- 令和1年度～令和3年度…実施延長 220km
- 令和4年度～令和7年度…実施延長 233km

■ 取組効果

- 堆積土砂撤去による氾濫防止(升形川(新庄市升形))



- 床止めによる河道安定化(野尻川(尾花沢市寺内))



II. 新たな課題と対応

- **課題1** 大雨による土砂流出に伴う土砂堆積の進行、実施済箇所への再堆積、新たな箇所への堆積が確認されている。
→対応 IIIの取組内容 ①、②
- **課題2** 浚渫土砂の再利用先が少なく、ストックヤードに空きがない。
→対応 IIIの取組内容 ③
- **課題3** 物価高騰等の影響もあり対策に係る費用が増加している。
→対応 IIIの取組内容 ④



▲土砂の再堆積の事例

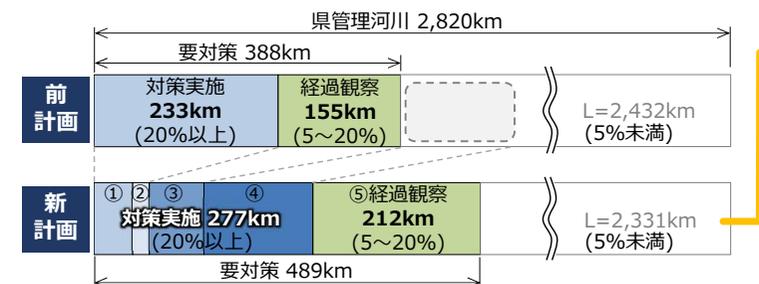
III. 河川流下能力再生計画の概要

■ **計画期間** 令和8年度～令和11年度(4か年) ※ 計画の終期は、緊急浚渫推進事業債の事業期間の終期と整合

■ 取組内容

- ① これまでの堆積土砂・支障木の撤去を継続し、**氾濫の危険性が高い箇所(河道閉塞率20%以上)を集中的に対策**する。
- ② 河道洗掘による土砂流出を更に抑制するため、**流路保全対策(床止め)を拡充**する。
- ③ 滞りない浚渫を行うため、**ストックヤードの確保**やストックされている土砂の**有効活用**を継続する。
- ④ 効率的・経済的な取組に向け、定期的に浚渫する**浚渫サイクル化**を試行する。
- ⑤ UAVを活用した河道状況モニタリングを継続し、土砂堆積の傾向や周期を把握する。

■ **計画延長** 要対策延長 489km (河道閉塞率5%以上) のうち、特に**氾濫の危険性が高い 277km** (同20%以上) を対象



対策実施延長 (河道閉塞率20%以上) = ① + ② + ③ + ④ = 277km
(令和4年8月および令和6年7月の大雨の影響で土砂堆積が進行し前計画より実施延長が増加)

● 要対策延長の内訳

- ① **再堆積: 49km**
前計画(令和4年度～令和7年度)に浚渫を行った区間であるが土砂が再堆積し、閉塞率20%以上となった区間
- ② **浚渫サイクル試行: 17km**
現時点で閉塞率20%を下回るが計画期間中に超えることが想定され試行箇所として選定した区間
- ③ **堆積進行: 69km**
前計画期間中に閉塞率5%以上20%未満から20%以上となった区間
- ④ **新たな堆積: 142km**
前計画期間中に閉塞率5%未満から20%以上となった区間
- ⑤ **経過観察: 212km**
閉塞率5%以上であるが20%未満の区間

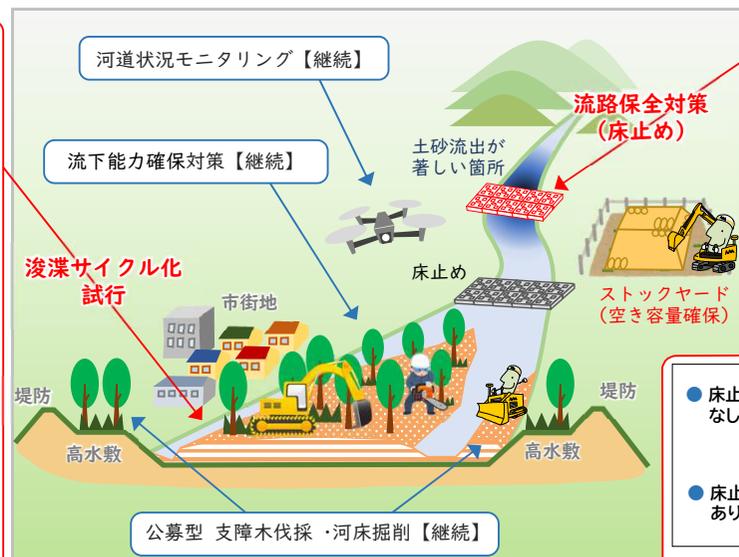
■ 取組イメージ

浚渫サイクル化(試行)

- ・ 詳細な現地調査を省略し**コスト縮減**
- ・ 定期的な浚渫による**作業の効率化**(3河川5箇所)
- ・ 浚渫のサイクルはモニタリング結果から「**4年に1回**」
- 試行結果を踏まえ、サイクル化拡大



▲浚渫サイクルのイメージ

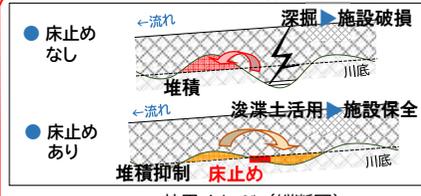


流路保全対策(床止め)(拡充)

- ・ 大雨により土砂の流出が著しく進行した箇所**で床止めを設置し土砂流出抑制**
- ・ 浚渫土を有効活用し低下した川底の復元による**河道安定化**
- 土砂流出抑制を推進することによる**将来の維持管理費軽減**



▲床止め設置の事例



▲効果イメージ(縦断面図)